

第 441 回定例研究報告会

2022 年 7 月 22 日

## 化石燃料市場動向・見通し

### <報告要旨>

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所  
化石エネルギー・国際協力ユニット  
石油グループマネージャー 研究主幹 森川 哲男  
ガスグループマネージャー 研究主幹 橋本 裕  
石炭グループ 研究理事 佐川 篤男

#### 本報告のポイント

1. 石油市場では、需要が 2022 年第 4 四半期に 1 億 b/d まで回復するが、備蓄放出及び米国やサウジアラビアの増産で 2022 年後半の需給バランスは供給超過となる。2022 年後半の Brent 価格は \$105/bbl と予測する。景気後退懸念、対ロシア制裁強化の可能性、供給途絶リスクの影響で価格は不安定な状況が続く。特に、ロシアの報復的禁輸は大きな価格上昇リスクである。
2. LNG 市場では、欧州連合の脱ロシア依存取り組みに伴う米国産 LNG の欧洲シフトが起きており、日本の電力・ガス会社の LNG 調達にとって需給環境は厳しい。世界 LNG 市場全体は激変の中で、2022 年に 5%程度拡大する。中長期的な LNG 供給確保とそれを支える投資実現が大きな課題となる。
3. 石炭市場では、2021 年後半から需要が供給を超過するなか、ウクライナ侵攻、EU と日本のロシア炭禁輸表明により価格は二度高騰を繰り返した。6 月に入り下落基調に転じたが、足元一般炭は \$400/t+ まで再び上昇、原料炭は \$200/t 台半ばまで下落した。2022 年後半の価格は、一般炭は供給国での供給回復、増産が見込まれ下落後、冬期需要により横ばい、原料炭価格は横ばいで推移すると予測。2022 年後半の平均価格は、一般炭は \$360/t、原料炭は \$250/t 前後。

#### 石油市場

4. 需要回復やロシア減産にもかかわらず、サウジアラビアや米国の増産および備蓄放出効果で、2022 年後半は供給超過が続く。2022 年後半の Brent 価格は \$105/bbl と予測する。
5. 生産目標未達国も多いものの、増産幅拡大で OPEC+ の 2022 年後半の生産量は前年同期比 200 万 b/d 増の見込み。実際の増産の大部分はサウジアラビアや UAE によって実施されるが、OPEC+ の実質的な余剰生産能力は低く、

供給途絶対応能力は脆弱である。

6. 2022 年後半は、米国利上げ等の影響による景気後退がもたらす価格低下リスク、対ロシア制裁強化や中東等での供給途絶がもたらす価格上昇リスクが市場で意識されやすく、その状況次第で価格は大きく変動する。特に、制裁強化への報復策としてのロシアの禁輸は大きな価格上昇リスクである。

### LNG 市場

7. 2022 年の日本の LNG 平均輸入価格は 2021 年の \$10.13/100 万 Btu から、\$16.5 程度に上昇する。北東アジア向けスポット LNG 価格は、2022 年平均 \$35 周辺で高止まりする。ターム契約価格は、高止まりする原油価格に引っ張られ、年平均 \$12.4 前後となる。
8. 2022 年の世界の LNG 貿易は、2021 年 3.72 億トンから 5%程度増の 3.9 億トンまで拡大する。一方、世界の天然ガス需要は、2020 年の 2%減少から回復し 2021 年は 4.5%増加したが、2022 年は横這いないし微減と見込まれる。増加ペースは、ウクライナ戦争とガス価格、Covid-19 の影響に左右され、不確実性があり、2023 年以降も従来の見通しを下回る。
9. 2021 年以降、欧州やアジアでガス価格は史上最高水準への高騰を経験している。特に同年 7 月以降は、スポットガス価格が原油等価を上回る状況が続いている。2022 年は世界情勢激動により、ガス・LNG 市場にはさらに不安定化要因が増加している。
10. 中長期的な LNG 供給確保に向け、売買契約交渉が活発化しており、新規 LNG 生産プロジェクトへの投資とそれを支える政策実現が期待される。

### 石炭市場

11. 輸入量上位 4 カ国の 2022 年上期を見ると、中国の輸入（1-5 月）は、国内生産の拡大、COVIC-19 感染拡大による消費の減少等により対前年比で減少。インドでは、一般炭輸入は 1-2 月低調であったが、3 月以降発電向け需要の拡大により増加、原料炭輸入（1-5 月）は昨年とほぼ同程度を輸入。日本の一般炭輸入（1-5 月）は 275 万トン増加し、韓国的一般炭輸入（1-6 月）は 500 万トン増加した。両国の原料炭はそれぞれ前年同期比 80 万 t、95 万 t の減少であった。
12. 供給側では、インドネシアの輸出禁止令（1 月）、豪州での 2022 年に入ってからの天候不順（豪雨）等により供給が落ち込んだ。
13. このような状況下、石炭スポット価格はウクライナ侵攻後に高騰（3 月には一時、一般炭は \$400/t に、原料炭は \$600/t 超に）し、EU と日本のロシア炭禁輸の表明後に再び上昇、5 月には一時、一般炭は \$400/t を、原料炭は \$500/t を上回った。6 月に入り一般炭、原料炭ともに価格は下落に転じが、一般炭

は豪州 NSW 州での豪雨により 7 月に入り再び上昇した。一方、原料炭は供給が追い付いてきたことから急落し、7 月に入り \$200/t 台半ばまで下落した。

14. 今後、一般炭は価格高騰を背景に供給量は増加すると見込まれ、2022 年第 3 四半期は下落基調で推移し、第 4 四半期は冬期の需要期の調達により横ばいで推移する。一方、原料炭は第 3 四半期以降、需給が安定し横ばいで推移する。

以上

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp